

## 食農産業クラスター推進事業の展開～三河市場形成型アグリテクノクラスター推進事業～

食農産業クラスター推進協議会（株式会社サイエンス・クリエイト）

中野 和久氏

### 1 三河市場形成型アグリテクノクラスター推進事業

愛知県東三河は愛知県の 1/3 の面積占めていますが、人口は 75 万人で愛知県（700 万人）の 1 割強です。

株式会社サイエンス・クリエイトは産学連携支援機関で、ちょうど 20 年くらいの歴史を持っています。地域には、豊橋技術科学大学があり、特に高専の出身者が全国から集まって大学を形成しています。豊橋技術科学大学の技術シーズを利用して、産業支援をしようというのがもともとの起こりです。サイエンス・クリエイトは、もう法律はありませんが当時の通産省の民活法第 1 号でつくった会社です。株主は、愛知県と豊橋市と日本政策投資銀行の 3 者で 35%、あと 65%が民間です。

まずサイエンス・クリエイトが食農産業クラスターにどう関わってきたのか、ということから話をスタートします。地域には商工会議所が 3 つありますが、1 番大きいのは豊橋で 6,000 の会員がいます。クラスター事業を始めるにあたり、まだこのときはクラスターという言葉を使っていませんが、どういう事業展開をしていったらよいかを目標として、アグリテクノ企業、アグリフード企業をとにかく 100 社つくっていききたい。売上は 2,000 億円、雇用は 5,000 人を雇用していききたい。東三河地域の農業産出額は当時 1,600 億円で愛知県の半分くらいを東三河で生産しておりますが、それを 1,800 億円にしたい。それから安心・安全な農産物の生産拠点をここに確立し、研究開発投資として 2005 年から 2010 年までに 100 億円くらいをかけて投資していきましょう、ということを目指しました。当時すでに豊橋技術科学大学とともに、文科省から都市エリア産学官連携促進事業（発展型）をとって、2008 年 3 月まで 6 年間やりました。約 10 億のお金が投入されています。その一部が農業の開発にも回っています。こういうお金をいろいろなところから確保して開発しています。そのためにも地域の事業者さんががんばってください、ということで豊橋市の商工会議所の役員会で報告しました。この数字は目安としてご理解いただければ幸いです。

### 2 三河クラスター形成の基礎的条件

豊橋市の隣にある田原市は、農業産出額では 779 億円で全国トップです。次いで 2 位は新潟市 695 億円、3 位は宮崎県都城市 679 億円、4 位は茨城県鉾田市 533 億円、5 位は静岡県浜北市 524 億円、そして 6 位は豊橋市 495

億円です。いろいろな市町村が合併してこのような数字になっていますが、2 年前の合併前は豊橋市が約 40 年間、市ではトップを走っていました。豊橋市と田原市は野菜や花で全国展開をしており、東京や大阪のマーケットにはかなりたくさん出しています。これらが三河クラスター形成の基礎的条件になっています。



(株)サイエンス・クリエイト 中野 和久氏

### 三河市場形成型アグリテクノクラスター推進事業 2005 年から 2010 年を目指した目標

◆ アグリテクノ企業・アグリフード企業	100 社創出 売上高 2,000 億円 雇用創出 5,000 人
◆ 東三河地域農業産出額	1,800 億円(現在 1,600 億円)
◆ 安心・安全な農産物生産拠点の確立	
◆ 研究開発投資額(産学官連携)	100 億円

出展：地域事例情報交流会の発表資料

### 3 クラスター形成のための企業群

クラスター形成を図る際、豊橋にある企業を調べました。食料品製造業は全国的に大きな企業の本社はないのですが、全国にあるいくつかの工場の 1 つという形で、カゴメ(株)さん、コーミ(株)さん、井村屋製菓(株)さんは豊橋に工場を持っているので、そういう工場がどのようなことをやっているのかをクラスター形成を図るために調べました。それから地元の小売業者にはどんなものがあるのか、また農業関係では JA 豊橋、JA ひまわ

り等いろいろあります。

もう1つ大きなのは、豊橋には飼料を含め農業関連産業が10社くらいあります。この地域は施設園芸、温室が盛んです。それを支える企業として、全国シェアが冷暖房で8割、温室の通信で8割という企業があります。ゴルフ場の芝刈り機8割のシェアを持っている企業もあります。

研究機関では、豊橋技術科学大学にはエコロジー工学系のほか、未来環境エコデザインリサーチセンターや先端農業バイオリサーチセンターという部署もあります。それから愛知大学、豊橋創造大学、シンクタンクでは東三河地域研究センターもあります。それらを支えるものとして、サイエンス・クリエイト、各商工会議所や財団があって、こういうものを形成しながら食料産業クラスターをつくらどうかという提案をしたわけでありませう。

#### 4 食農産業クラスター推進協議会

食農産業クラスター推進協議会の2007年6月スタート時点の企業数は80社で、若干脱落したところもありますが、2008年6月の総会で105社になりました。事業をやりたい企業には年会費を2万円払ってもらいます。

設立総会では、東三河が生産6割を占める大葉を使った加工品開発や次郎柿の輸出、豊橋技術科学大学と組んでやっている金属探知センサの開発、糖度や熟度を測るための非破壊測定器の開発等を分かりやすいようにPRしたパンフレットを作って、「参画した100チーム・会社がそれぞれで新しい事業を目論んでスタートしましょう」というキャッチフレーズでスタートしました。

#### 5 食農産業クラスター推進事業

特に考慮しておりますのは、「技術」、「商品」、「情報」、「市場」です。「新技術開発事業」では、今の食品産業で必要なものをどうやって開発するか、あるいは農業機器をどう開発するか。「新商品開発事業」は、大葉を使って新しい商品に取り組む商品開発の部分と、作ってもなかなか売れませんか「販路開拓」をするチームをつくりまします。この3つが事業の根幹です。そのほかに「食農教育事業」や「発信事業」を含めた5つの事業をクラスター事業として進めたいと考えました。

##### 5.1.食農教育事業

食農教育事業では、「豊橋田原食育体験講座」を豊橋と田原の連合で年4回やっています。一般の方を募集して、この地域の素材を利用したメニューを提供しながら、生産者や料理人の方も含めたセミナーを開いています。それから年1回「食農推進フォーラム」を開いたり、「クラスター推進セミナー」では地域ブランドをどうやったらよいかやJGAPをどう農家に取り入れたらよいか、また豊橋技術科学大学の先生を呼んで「土壌の科学」とい

うテーマで勉強会をやったりしています。

##### 5.2.新技術開発事業

新技術開発事業では、センサを使って土壌の中身をデータでおさえたり、昨年からは始まっていますが畝立て同時施肥の機械を活用して農薬を半分減らしたり、肥料も半分にできないかというような実証実験を地元の農家と一緒にやっている最中です。

##### 5.3.新商品開発事業

新商品開発事業では、青じそ加工研究会をスタートさせ商品開発をしている最中です。またウズラの卵も全国の6割生産していますが、ウズラの肉は年間200万羽分が産業廃棄物になっているので、その活用法の研究が始まっております。



2007年10月25～26日に開催された食農産業クラスターフェア(場所:豊橋サイエンスコア)で、青じそ加工研究会の新商品試食会を実施している様子

##### 5.4.販路開拓事業

中小企業で製品をつくるだけではなかなか売れないので、販路開拓事業では販路をつくる人たちをくっつけて実際に売り出していこうとしています。金属異物検出機器や非破壊測定器は、全国に売り出して、いろいろなところで成果を上げてきています。

##### 5.5.発信事業

発信事業ではホームページやいろいろな雑誌に情報を発信したり、展示会に出たりしています。

#### 6 2008年度の取組み

特に今年取り組んでおりますのは、新商品開発、新技術開発、販路開拓ですが、新しい形で取り組んだのは新技術開発事業の「大葉選別機開発」です。大葉は全国シェアの6割を生産していますが、生葉をパートの人たちを使い、選別しなければなりません。その選別を機械で

できないかということで、地元の車産業のロボット技術を用いた映像を使った選別機の1号機を開発している最中です。秋には出来る予定でそれを使うとかなり作業が改善されるだろうといわれております。それから「光技術活用施設園芸」では、浜松との連携で地元豊橋の高級な花、たとえば胡蝶蘭を育てる際の種苗の段階で光を使ってうまくできないかということをやっております。新商品開発事業では、輸出している次郎柿を缶詰にして輸出用商品ができないかと取り組んでいる企業があります。

この1年かけて、食料産業クラスター体制強化事業(農水省)や研究成果実用化促進事業(農水省)、地域力連携拠点事業(中小企業庁)、県境地域連携事業(愛知県)、新事業創出等事業(豊橋市)、豊橋田原広域農業推進事業(豊橋・田原)、それぞれ申請を出して委託や補助を受けています。トータルで1億円くらいになりますが、それで事業を推進していきます。

## 7 最後に

豊橋には、会議所会員企業数 6,000 社のうち、従業員 100 人以上の規模の企業は 100 社ありません。ほとんどが 20 人とか 10 人とかで、そんな企業がたくさんあるわけですが、やはり非常に保守性が強く、地域からなかなか

か外へ出て行かず、地域で完結しています。地域で完結していて食べていけるのなら構わないと思うのですが、ただ、今まで通りやっていくのは難しくなっています。クラスター事業そのものを進めるのも目的ですが、愛知県や豊橋市が言っているのはクラスター事業で新しいものに取り組んで中小企業をどう活性化させるか、それに力点があるわけです。仕組みを作りながら、そこに参加していく企業については支援していき、新しい展開が出てきたらよいのではないかということです。ドラッカーの言葉を引用しますと「イノベーションとは昨日の世界と縁を切り明日を創造すること」。地元が小さすぎるゆえにそう言わざるを得ないというのが現状でして、クラスター事業そのものをそのようにまとめ上げていきます。

### 【お問い合わせ】

食農産業クラスター推進協議会事務局

(株式会社サイエンス・クリエイト内)

〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池 333-9

豊橋サイエンスコア

TEL 0532-44-1111 FAX 0532-44-1122

E-mail [cluster@tsc.co.jp](mailto:cluster@tsc.co.jp)

URL <http://www.tsc.co.jp/cluster/>